

2019 年度統計関連学会連合第 3 回理事会・組織委員会 議事録

日 時：2019 年 12 月 21 日（土）15:00 – 16:30

場 所：株式会社 NTT データ数理システム セミナールーム

出席者：

【学会連合理事】

応用統計学会 岩崎 学，中西寛子

日本計算機統計学会 小木しのぶ

日本計量生物学会 松井茂之

日本行動計量学会

日本統計学会 川崎 茂

日本分類学会 栗原考次，富田 誠

【連合大会実行委員会】 竹村彰通（2019）， 笛田 薫（2019）， 山本義郎（2020）

【連合大会運営委員会】 中川重和（2019）

【連合大会プログラム委員会】 富田 誠（2020）

【JJSD 編集委員長】 青嶋 誠

幹事 阿部貴行，石岡文生

組織委員会・審議事項

0. 前回議事録の確認

前回の組織委員会の議事録が確認された。

1. 2019 年度連合大会報告及び決算

- ・ 中川運営委員長（2019 年度）より，会計報告・決算報告が提出され，審議の結果，原案の通り承認された。また，会計および運営に関して以下の通り報告及び議論があった。
 - 収入については，大会収入はほぼ予算通りであり，チュートリアル収入は予算を上回るものであった。懇親会収入は予算を下回ったが，支出を実参加者数で計算してもらえたため収支に大きな影響はなかった。
 - 支出についても，予算と大きな差異はなかった。会場費が前年よりも増えたのは，参加者の利便性を高めるために送迎バスを借り上げたためである。
 - 予備費は昨年と比べ約 150 万円減った。

2. 2020 年度連合大会各副委員長及び委員について

- ・ 岩崎理事長より，2020 年度の運営副委員長（2021 年度運営委員長）に久保田貴文氏（多摩大学），プログラム副委員長（2021 年度プログラム委員長）に坂本 亘氏（岡山大学）に担当頂きたい旨の提案があり，承認された。また，下記の各学会からの選出委員について承認された。
- ・ 2020 年度運営委員会

委員長：藤野友和（福岡女子大学）

副委員長：久保田貴文（多摩大学）

応用統計学会：山口誠一（立教大学）

日本計算機統計学会：下川朝有（東京理科大学），作村建紀（法政大学）

日本計量生物学会：三枝祐輔（横浜市立大学），小向 翔（大阪大学）

日本行動計量学会：宮澤芳光（大学入試センター）

日本統計学会：河田正樹（徳山大学），渡辺隼史（金沢大学）

日本分類学会：土田 潤（東京理科大学）

委員長推薦：柳 貴久男（岡山理科大学）

・ 2020 年度プログラム委員会

委員長：富田 誠（横浜市立大学）

副委員長：坂本 亘（岡山大学）

応用統計学会：元山 斉（青山学院大学），二宮嘉行（統計数理研究所）

日本計算機統計学会：廣瀬 慧（九州大学），川野秀一（電気通信大学）

日本計量生物学会：長谷川貴大（塩野義製薬(株)），船渡川伊久子（統計数理研究所）

日本行動計量学会：奥村太一（上越教育大学）

日本統計学会：福地純一郎（学習院大学），永原裕一（明治大学）

日本分類学会：山本倫生（岡山大学）

委員長推薦：石岡文生（岡山大学）

・ 2020 年度実行委員会

委員長：山本義郎（東海大学）

- ・ 運営委員およびプログラム委員の委員長推薦による委員追加については、昨年と同様の対応とする（基本的には承認することとし、各委員長から理事長に伝え、理事長から組織委員会に報告（メール審議）する）。
- ・ 実行委員の追加についても、昨年と同様の対応とする（組織委員会の承認は必要としない）。

3. 2020 年度連合大会運営方針について

2020 年度の連合大会の運営方針について、以下の通り情報共有、報告および議論がなされた。

- ・ チュートリアルセッションおよび市民講演会は、例年と違い平日開催であるため、より多くの方が参加できるよう、それぞれ午後と 18 時頃の開始を計画している。
- ・ 会場については、並行セッション数が多い日時は、富山国際会議場と富山県民会館の 2 会場でセッションを行う予定である。両会場間の距離は徒歩で 5 分程度である。会場費の支出については、富山県から得られる予定の助成金を活用する計画である。
- ・ 2020 年度は、隔年開催の Akaike Memorial Lecture を実施する。2021 年度にはプレナリーセッションを行う方針である。本件は、次回の組織委員会の議題とする。
- ・ 大学での開催ではないが、会場レイアウト等は会議場側に依頼できるため組織委員会の負荷を軽減でき、受付・会場などの事務スタッフには市民ボランティアに支援頂く予定である。運営委員も学

会により参加できるように工夫する計画である。

- ・ コンペティション講演セッションは、例年通りプログラム副委員長を責任者として開催する計画である。
- ・ 海外からの講演者による特別セッションも積極的に企画したいと考えている。
- ・ 学会業務委託について、2020年度は、昨年とは別の業者に依頼する計画である。新しい業者は発表原稿入稿からプログラム作成が自動で行える点や大会プログラムの中の発表者や座長の不整合を自動検出できるシステムをもっており学会側の負担軽減が期待される。更に、これまでよりもコストも低下できる予定である。
- ・ 岩崎理事長より、2021年度統計関連学会連合大会は、9/5(日)～9/9(木)に西井 龍映氏を実行委員会委員長とし長崎大学（文教キャンパス）にて開催し、併せて、長崎大学との共催で行いたい旨が提案され、承認された。

連合理事会・審議事項

0. 前回議事録の確認

前回の連合理事会の議事録が確認された。

1. その他

川崎理事より、日本統計学会が申請した科研費により、JJSDの発刊に係る年間費用（2,500,000円＋消費税）を2019年度から5年間支出するという前回の連合理事会での議案について、支出に関する諸手続きが完了した旨が報告された。2023年度までは、これまで日本統計学会および日本計算機統計学会が負担してきた当該費用の個別学会からの支出は不要となる。2024年度以降は、各学会の当該費用の分担方法について再検討が必要になる。

岩崎理事長より、2020年1月1日からJJSDへのオープンアクセスができなくなり、統計関連学会連合に所属する学会の会員は無料購読できるが、Springer社が発行するAssociation Codeを用いた手続きが毎年必要である旨が周知された。現在、各学会から会員ごとに異なるコードを個別に伝達する作業を実施中である。新入会員のための余分なコードを十分に用意する必要がある旨が確認された。

連合理事会・報告事項

1. JJSDの現状について

青嶋編集委員長より、JJSDの現状について次の通り報告があった。

- ・ 2018年の出版開始から2年間が経過し、全般的には目標通りに推移している。JJSDのリニューアルしたHPには、JJSDに関する様々な指標が公表されている。
- ・ 2021年度の6月号まで、すでに各号で扱う特集が企画され、詳細がHPに公表されている。なお、2021年6月号の特集担当者は、岩崎理事長の了承を得て、JJSDのcoordinating editor (CE) に就任頂くことになった。

- ・ インパクトファクター取得の第一段階として、ESCI (emerging sources citation index) への申請を行った。
- ・ 今後の JJSD の論文の被引用数の増加のために、JJSD の広報活動が重要となる。

川崎理事より、JJSD の広報用のチラシについて以下の報告があった。

- ・ 出版から 2 年間が経過したため、内容の更新が必要である。今後、岩崎理事長、青嶋編集委員長と連携し Springer 社とチラシの内容の更新を相談する。
- ・ 各学会で JJSD の広報の重要性について情報共有頂き、各会が関連する国内外の会議において、積極的に本チラシを配布してほしい。必要部数等については、各会から Springer 社の担当者に直接連絡頂きたい。

2. 後援・協賛について

岩崎理事長より、前回理事会から本日までに、次の事業・会議に後援したことが報告された。

- ・ 文部科学省委託事業「数学アドバンスイノベーションプラットフォーム」(AIMaP) との連携
- ・ CREST さきがけ合同シンポジウム「数学パワーが 世界を変える 2020」(2020.02.01) 於：秋葉原コンベンションホールの後援
- ・ 学術会議シンポジウム「データと AI の時代への数理科学」(2020.03.25) 於：日本学術会議講堂の後援

3. その他

近年、注目度の高い、データサイエンスおよび AI 関連の人材育成について、統計関連学会連合としての今後の活動について、理事間で意見交換が行われた。

次回連合大会組織委員会及び統計関連学会連合理事会：

2020 年 4 月 25 日 (土) に (株) NTT データ数理システムにおいて開催